

WG01 事故撲滅と実現のための管理者、乗務員教育 2024年度 方針発表

一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会

事故撲滅と実現のための管理者、乗務員教育

事故撲滅に向けた管理者育成、乗務員の安全教育、行動変容を伴った、
運輸安全マネジメントの対応の具体的な行動プランを取りまとめる。

リーダー： ロジスティード株式会社 **和田 康宏**
サブリーダー： ジャパン・トゥエンティワン株式会社 **近藤 勇真**

事業者会員 11社

株式会社アルプスウェイ
茨城乳配株式会社
梅田運輸倉庫株式会社
株式会社SHINKOロジ
株式会社セイリョウライン
センヨシロジスティクス株式会社
中部興産株式会社
株式会社フジトランスライナー
松浦通運株式会社
株式会社丸山運送
ロジスティード株式会社

サポート会員 7社

ジャパン・トゥエンティワン株式会社
SCSK株式会社
日本ミシュランタイヤ株式会社
株式会社ネミエル
株式会社パトライト
矢崎総業株式会社
リアライズ・イノベーション株式会社

アドバイザー

TDBC アドバイザー 遠藤さん
(元一般社団法人東京都トラック協会 参与)

今年度(2024年度)の進め方

昨年度の実証実験からの気づき

- ・指標としてきた運輸安全マネジメントガイドライン14項目の更なる追求
- ・23年度の取り組みで認められた一定の成果を他社、同じ会社内の他拠点へも同様に展開できるか検証

運輸安全マネジメントに基づいた安全教育の水平展開

- ・23年度にまとめた行動変容モデルを他社、同じ会社内の他拠点に展開できることを確認、ブラッシュアップ
- ・WG内外の事業者会員と議論を深め、それぞれの会社でも可能なモデルかを検証
- ・様々な規模の会社でも安全対策として機能することを確認

更なる取り組みの拡大

- ・製品を導入することだけでなく、使うための仕組みやそれぞれの会社内に浸透させるためのノウハウ
- ・TDBC Forum以外にも、WG01主催のセミナーを開催するなど成果のアウトプットを発信
- ・物流関連2法の改正への対応と元請け・荷主・行政への積極的働きかけ
- ・ガイドラインの概念を具体的な行動変容モデルの確立へと昇華

2024-25 WG01 活動方針

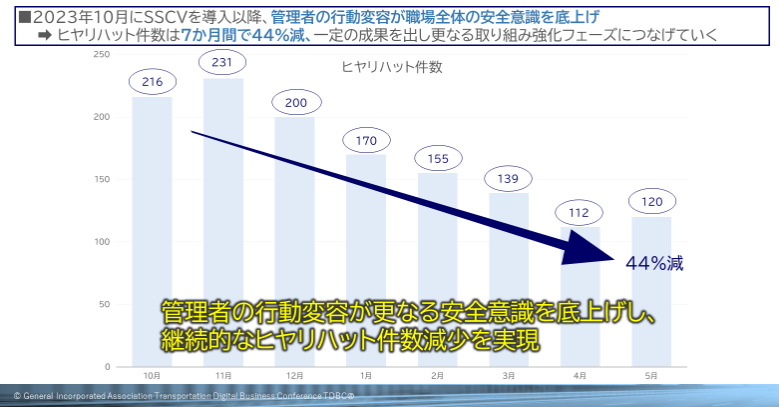
3社の取組み結果

SSCV ロジスティード

TRUE SAFE 矢崎総業

モービルアイ ジャパン・トゥエンティワン

取組み成果(月間ヒヤリハット件数の推移)

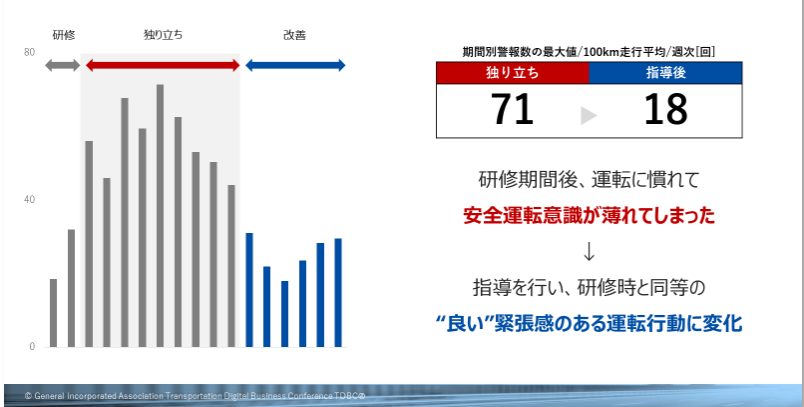


WG01_実証実験結果

業務効率化と、指導の質向上の2つの観点で、一定の成果を得た。

活動結果	観点	内容
活動結果	業務効率化の観点	<ul style="list-style-type: none"> 指導の作成(計画)にかかる時間は、体感5分ぐらいであり、業務負担にはなっていない 同じ作業を既存のやり方で行くと、100名ほど事業所にいるため、5倍以上はかかる
	指導の質向上の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「バック前の停止時間」と「バック中の速度」という指標を主に使っており、ピンポイントで指摘事項がわかるため、場所の情報と合わせて、乗務員も納得しやすいようなコミュニケーションが取れるのではないかと考えている

管理者が指導を行い、運転行動が変化した乗務員



使用する製品やサービスは異なるが、**ヒヤリハット件数の削減**や**業務の効率化**、**教育指導の質向上**など、**定量・定性の両面**で効果が確認できた。

2024-25 WG01 活動方針

運輸安全マネジメント制度 運用の課題

課題	解決策	実現可能性や難易度
時間的制約	- 簡潔で効果的な教育マニュアルの作成	本社管理部門で作成するなどの対応ができそう
	- eラーニングやオンデマンドトレーニングの導入	比較的取り組みやすいがコストがかかる
リソースの不足	- 他部門との協力や外部講師の活用	スモールスタートなら取り組める可能性がありそう
	- 予算配分の見直しと本社との協議	多くは半年～1年に一度のため、時間がかかる
コミュニケーションのギャップ	- 定期的な会議やフィードバックの実施	仕組化・ルール化することで、すぐに実現できそう
	- 現場からのフィードバック収集と本社への報告	ルール作りが必要だが、すぐに取り組めそう
モチベーションの維持	- インセンティブ制度の導入と表彰	制度設計の作りこみに時間がかかりそう
	- 安全運転の重要性や成功事例の共有	週・月に1回など、すぐに取り組めそう
継続的な教育の難しさ	- 教育内容の定期更新と新知識・技術の取り入れ	担当者を決める等は必要だが、取り組みやすそう
	- 柔軟な教育計画の策定	具体性によるが、月次の計画からなら可能そう
データ管理と分析の負担	- データ収集の自動化と分析ツールの導入	手段の選定やコストなど、検討する項目が多い
	- 専門スタッフの配置	すぐに取り組むことは難しい、コストもかかる
現場管理者への支援策	- 現場管理者へのトレーニング提供	本社の取組みをシェアするなど、すぐにできそう
	- 専門安全管理チームの設置	多くの人、チームを巻き込むので時間がかかりそう
	- 安全管理ツールやアプリの提供	本社で使用しているものはすぐにシェアできそう
	- 目標や進捗状況の可視化	KPIを設定し、エクセルなどで開始できそう

2024-25 WG01 活動方針

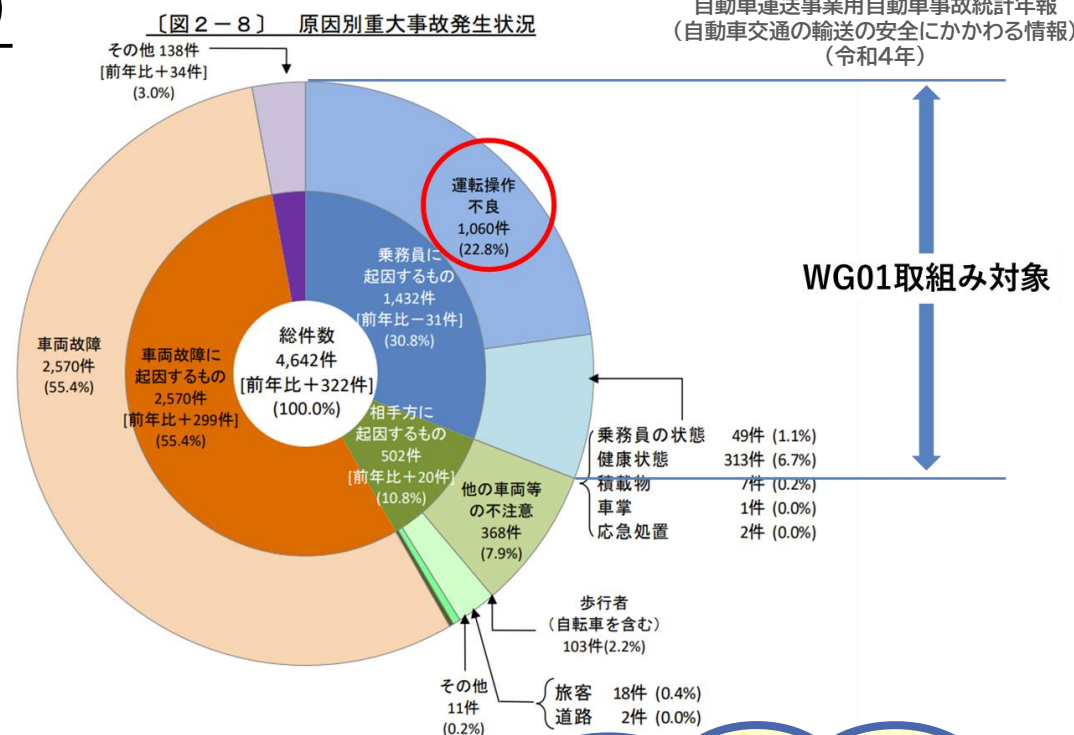
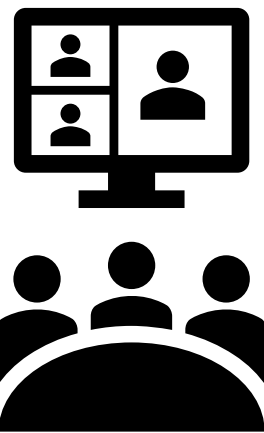
2024/10/07 会合での課題まとめ(要約)

ソリューションの課題
悪い点を注意することが多い傾向にある
(見習うべき点があっても見落とされ勝ち)

外国人採用
言語の壁があり伝わりづらい

新人乗務員の事故
各社安全教育の方法や運用に課題を抱えている

ベテラン乗務員の事故
『ルールより経験』が勝ってしまう



事故傾向
各社コメントから特にバック事故に頭を悩ませている

発荷主・着荷主

働きかけ

フィードバック

プラットフォームの形成
(誰にでも刺さる取り組み)

業務ルールの明確化
運転スキル向上への環境整備

グッドプラクティスの共有



- ドライブシミュレータ
- AI活用
- 脳トレ



課題への取り組み

取り組み成果(管理者から乗務員へ、行動変容の好事例) TDBC

- IoTボタンを活用して乗務員自ら好事例を報告(乗務員の良い運転を褒める使い方ができている)
→ 乗務員の1つのフィンプレーをセンター全体で共有する仕組みを構築、次なるフィンプレーへ
- 安全確認行動のエビデンスとして
乗務員評価につなげる機能
- IoTボタンとは?
SSCV機能のひとつで、運行中にドライバーが任意にドレフ動画を切り出すことのできる機能
(IoTボタンを押下すると30秒だけの静止画像が記録)
- 【管理者コメント】
信号無視の車両がいたにも関わらず、集中して運転が出来ておりGood!!
- 1人の乗務員のフィンプレーは次なるフィンプレーの種!
良い事例はセンター全体で積極的に共有

3社の取り組み結果 TDBC

- SSCV ロジステイト
- TRUE SAFE 矢崎総業
- モバイルアイ ジャパン・トウエンティワン

23年度取り組みの成果

使用する製品やサービスは異なるが、**ヒヤリハット件数の削減**や**業務の効率化**、**教育指導の質向上**など、**定量・定性の両面**で効果が確認できた。

物流事業者へ
シェアリング

物流事業者へ
シェアリング

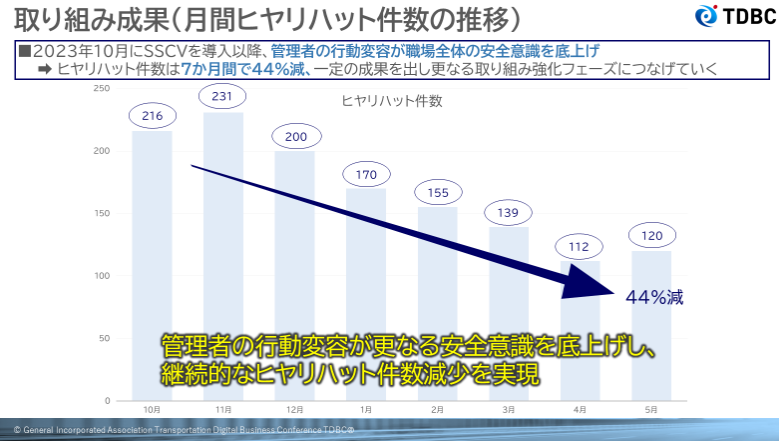
2024-25 WG01 活動方針

3社の役割 + α

SSCV
ロジスティード

TRUE SAFE
矢崎総業

モービルアイ
ジャパン・トゥエンティワン

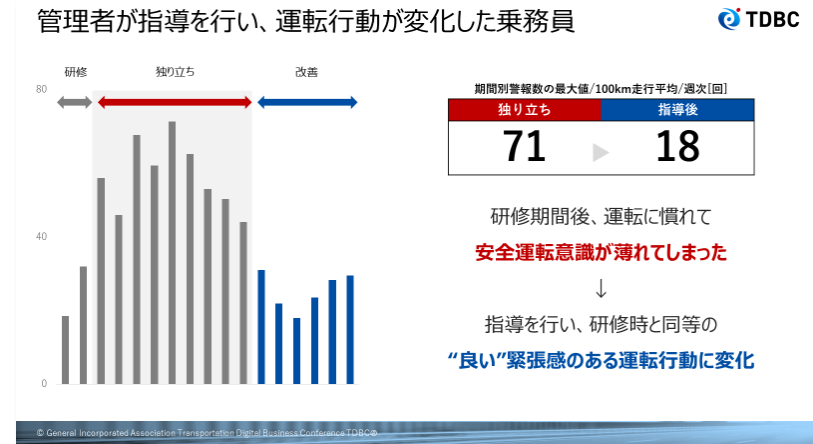


WG01_実証実験結果 TDBC

業務効率化と、指導の質向上の2つの観点で、一定の成果を得た。

活動結果	観点	内容
活動結果	業務効率化の観点	<ul style="list-style-type: none"> 指導の作成(計画)にかかる時間は、体感5分ぐらいであり、業務負荷にはなっていない 同じ作業を既存のやり方で行くと、100名ほど事業所にいるため、5倍以上はかかる
	指導の質向上の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「バック前の停止時間」と「バック中の速度」という指標を主に使っており、ピンポイントで指摘事項がわかるため、場所の情報と合わせて、乗務員も納得がしやすいようなコミュニケーションが取れるのではないかと考えている

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC



- ・ソリューションの他社・他拠点への展開時の課題と対策
- ・グッドプラクティスの共有手法検討

- ・デジタル技術・機能の活かし方
- ・技術・機能に頼るところと運転習慣(ルール)を徹底するところの棲み分け

- ・発荷主・着荷主を巻き込んだスキーム構築に向けた課題と対策

一緒に推進していく仲間になってください！

ビジョン

運輸安全マネジメント制度に基づいた、安全教育モデル普及

業界全体の安全意識向上

交通事故ゼロ企業の増大

活動の“当たり前”化

モデルの確立と認知拡大

更新・荷主を巻き込んだ取り組みへと昇華

課題への対応とモデルの再現性確認

更新・運輸安全マネジメントに基づいた安全教育の水平展開

更新・更なる取り組みの拡大

運輸安全マネジメントに基づいた持続可能な行動変容モデルの構築

- ・3つのソリューションを検証
- ・検証結果から運転行動の変化を起こすための要素を抽出

フェーズ1

2023-24

フェーズ2

2024-25

フェーズ3

2025-26

更なる取り組みの拡大に向けて、指標にするべき重点項目を以下の通り設定のうえ推進していくことを想定

指標

[23年度]

7 事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用 **10** 安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練等

[24年度]

6 情報伝達及びコミュニケーションの確保 **13** 文書の作成及び管理

ガイドライン14項目

[23年度]

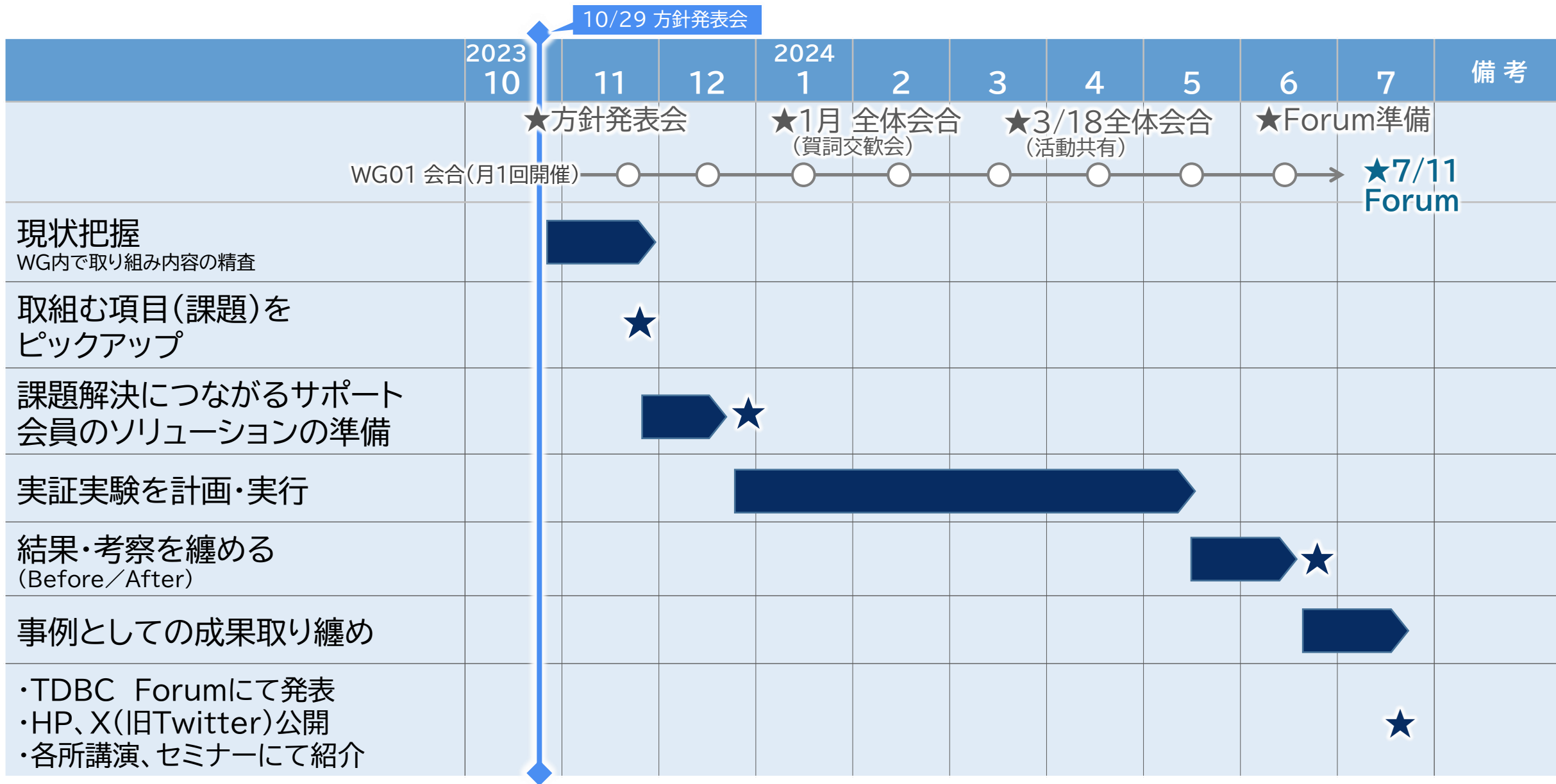
1 経営トップの責務	8 重大な事故等への対応
2 安全方針	9 関係法令等の遵守の確保
3 安全重点施策	10 安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練等
4 安全統括管理者の責務	11 内部監査
5 要員の責任・権限	12 マネジメントレビューと継続的改善
6 情報伝達及びコミュニケーションの確保	13 文書の作成及び管理
7 事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用	14 記録の作成及び維持

■運輸安全マネジメントガイドラインとは
 輸送の安全確保が最も重要であるという意識を社長から全ての運転者まで 共有し、一体となった安全管理体制を構築するとともに、その体制を継続的に 改善し、輸送の安全性を高めていくことを目的とした制度

[24年度]

1 経営トップの責務	8 重大な事故等への対応
2 安全方針	9 関係法令等の遵守の確保
3 安全重点施策	10 安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練等
4 安全統括管理者の責務	11 内部監査
5 要員の責任・権限	12 マネジメントレビューと継続的改善
6 情報伝達及びコミュニケーションの確保	13 文書の作成及び管理
7 事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用	14 記録の作成及び維持

2024-25 WG01 活動スケジュール



事故撲滅と実現のための管理者、乗務員教育

事故撲滅に向けた管理者育成、乗務員の安全教育、行動変容を伴った、
運輸安全マネジメントの対応の具体的な行動プランを取りまとめる。

皆さまのご参加、お待ちしております

持続可能な運輸業界を目指し次なるステージへ



一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会

<https://tdbc.or.jp/>

unyu.co@wingarc.com

03-5962-7370

X(旧Twitter)公式 @TDBCJP